

15 旧与良川堤防「あんずの里」



平成に入り、下生井地区の「地域おこし」として、河川管理者である栃木土木事務所から占有許可を受け、旧県道174号(南小林松原線 ※現在は市道)の与良川橋の東方で、旧県道173号(萩島白鳥線 ※現在は市道)と交差する地点から遊水地堤防に至る旧与良川左岸堤防を整備し、100本を超えるアンズの苗木を植樹し、住民が集える場所として、水道・電気・簡易トイレ等を整備した「あんずの里」が創設されました。堤防整備時の様子は、栃木県版道徳資料に掲載されたこともあります。

近年はクビアカツヤカミキリの被害を受け、本数が減少しています。実の利用については、自治会住民が指定日に収穫するほか、下生井小の児童や小山第二中の生徒が収穫し、ジャムに加工しています。

起点となる場所には、戦前から魔除けの意味を持つ「槐(サイカチ)」の木(現在は3代目)があります。かつてここには、栃木駅と新古河駅を結ぶ東武鉄道の路線バス(廃止)の「サイカチ」という名前が付いたバス停もあり、バスを待つ人の日よけになっていました。大字下生井と大字白鳥との境界にあたるため、現在でも7月末または8月初の日曜日に、魔除けの「辻固め」の青竹が自治会によって立てられます。



「あんずの里」の看板〔2020(令和2)年9月18日撮影〕



サイカチの木〔2018(平成30)年5月6日撮影〕



春の様子〔2023(令和5)年3月17日撮影〕



冬の様子〔2023(令和5)年2月10日撮影〕



アンズの木と花〔2023(令和5)年3月17日撮影〕



実〔2021(令和3)年6月12日撮影〕